

団体名：広島県立庄原実業高等学校 面積：0.1ha
所在地：広島県庄原市 構成員：11人
応募区分：団体の部 生産品目：鶏卵

取組の紹介

【校内生産の鶏卵の高付加価値化へ】

- 広島県立庄原実業高等学校の生物生産学科3年生に在籍する11人が鶏卵についての授業をきっかけにアニマルウェルフェアと平飼いによる高付加価値化の可能性に興味を持ったことから、令和3年度から実習農場で生産される野菜等残渣の有効活用を視野に、平飼いによる資源循環型農業の実証に取り組むこととなった。また、京都大学からシロアリの破壊的木材分解能力を利用してシロアリを繁殖・飼料化し、鶏に給餌する研究の協力依頼を受け、データ収集と実証に取り組んでいる。



生徒が鶏舎を整備

【資源循環型生産に向けた取組】

- 鶏舎の飼育環境を整備し、品種名「もみじ」を116日齢で50羽導入。現在、鶏の生育記録、給餌記録、産卵記録等の調査中であるが、野菜残渣等の活用、稲わらの活用、シロアリの給餌、及び平飼いの床土の畑への還元等を通じた資源循環型農業への貢献、並びに平飼いによる生産性の向上について検証している。
- 野菜等残渣の活用及び未利用木材を利用したシロアリの繁殖・給餌等により、濃厚飼料に依存した経営からの脱却を図り、資源消費型から資源循環型農業生産に転換する。また、平飼いを開始してからは鶏舎からの悪臭が大幅に軽減されたほか、ハエなどの衛生害虫も減少したことから、近隣地域への臭気対策にも効果がみられた。



平飼いの鶏舎内

【地域と連携した取組の推進】

- 生産した鶏卵はオープンスクールや校内で販売しており人気が高い。今後は農業高校による資源循環型鶏卵としてブランド化を目指し、地域のスーパーでも販売できるよう鶏卵の安定生産に務めている。
- 週1回校内に農産物・加工品の販売所を開設している。ここで地域住民と交流する機会を活用し、地域住民に取組内容を伝え、理解の推進を図っている。



未利用木材を利用した給餌用
シロアリの繁殖
(京都大学での研究に協力)